

平成20年度率先実行大賞 受賞取組概要

応募を受け付けた順に掲載

部局名		活動テーマ	グループ名	取組概要
1	総務部	(1) 受講して良かったと思える研修に顧客ニーズにこだわる法務研修のさらなる展開	法務・文書室	法務・文書室では、職員が法律を理解し、活用するための研修を、顧客である職員のニーズに基づき、関心が高い分野やタイムリーなテーマで実施している。また、複数会場で順次実施する「巡回」型研修においては、開催の都度、受講者アンケートによりニーズをリアルタイムで把握し、次回以降の研修に速やかに反映している。 その結果、受講者数は大幅に増加し、受講者満足度も、「講演」型研修で4.67、「巡回」型研修で4.09、「演習」型研修で4.44というきわめて高い数値を記録している。
2	政策部(熊野)	(12) 職員の「話す」力の向上を目指して～3分間スピーチの取組～	熊野県民センタープロジェクトN	熊野県民センターでは、毎日の朝礼時の3分間スピーチにおいて、その場でくじで決まったテーマを話す「アドリブ型スピーチ」により、とっさの対応力を養う、事後にアドバイザーが内容や話し方等を評価する「チェック型スピーチ」により、自分ではわからない話す時のしぐさや話しの内容の伝わり方等を確認する、「1人1回の質問をする月間」により、人の話をきちんと聞くという広聴の姿勢を養うなど、マンネリ化しがちな取組に工夫を加え、県職員として重要な能力の1つである「話す」力の向上を図っている。
3	農水商工部	(13) 美し国みえの伝統野菜や松阪の食材をもっと知って!～行政と企業の協働企画による地産地消ランチ～	松阪農林商工環境事務所 松阪地域地産地消伝統やさい推進プロジェクト	地産地消運動の推進、みえの伝統野菜等の啓発を図るため、松阪地域のすばらしい食材を多くの皆さんに楽しく知ってもらうことを目的に、県松阪庁舎食堂を運営している株式会社トモ、県、管内JA及び生産者が協働し、「地産地消ランチ」を考案した。 まずは足元からの発想で、週1回、県松阪庁舎食堂でランチの提供と食材のPRや生産者の紹介を行うとともに、アンケートにより成果の検証を実施しており、株式会社トモが運営する他の企業食堂でも地産地消メニューが提供されるなどの広がりを見せている。
4	防災危機管理部	(18) 未来につなぐ子ども消防防災体験学習～楽しく学んで防災力アップ～	消防学校	近い将来発生が危惧される東海・東南海地震などの災害の被害を軽減するためには、県民の防災意識の向上が欠かせず、大人向けの啓発だけではなく、将来を担う子どもたちに対する教育啓発の充実が必要となる。 そこで、消防学校では、子どもたちが将来、地域の消防防災を担えるようになることを目的に、実際の消防士が訓練する消防学校の施設を使って、消防体験学習を行っている。消防学校で訓練中の初任科生が自主的な工夫で子どもたちを指導し、それを消防保安室職員、消防学校教官、消防本部職員がサポートすることで、安全性を確保しつつ、子どもたちが楽しみながら知識を身につけられるような内容となっている。
5	農水商工部	(55) 日頃のメンテで経費削減!～水産研究所メンテナンスチームの活動	水産研究所メンテナンスチーム	海水ポンプ等、多くの特殊機器を使用している水産研究所では、従来、業者に委託して保守・点検を行っていたが、職員の「気づき」提案をきっかけに、技術員らが自主的にメンテナンスチームを結成し、定期的に機器の保守・点検を行うようになった。 この活動は、メンテナンスチーム以外の技術員へのOJT、機器の応急処置に関するマニュアルの作成・共有等により、取組の輪をさらにひろげ、業者への委託費の75%削減、機器等の修繕費の26%削減等の効率化につながっている。 また、日頃のメンテナンス活動の充実により、突発的な故障が減り、故障等に対応するための時間外勤務も減少するなどの効果も生みだしている。
6	教育委員会	(78) 対決! 先生VS事務	県立川越高等学校 総務部・事務部	川越高等学校では、物の増加、収納施設の課題、整理整頓に対する意識の低さなどから物があふれている状況を改善するため、教員と事務職員が垣根を崩して協業し、職員室、事務室等の収納施設の再配置・レイアウト変更等により、職場環境、接客環境の改善を行った。 また、全職員が環境整備に関する年間行動目標を設定し、年度末に目標達成状況を検証するほか、生徒への働きかけにより挨拶励行、在校生による学校周辺の清掃活動、卒業生・保護者有志によるトイレ清掃活動も定着しつつあり、人間育成にもつながっている。

部局名		活動テーマ	グループ名	取組概要
7	環境森林部	(98) たかが？ されど！ ~身分証の発行管理業務の見直し~	環境森林部 身分証明書等事務改善ワーキング	様々な法令に基づく立入検査等を行う場合に携帯する身分証明書。環境森林部では、こうした身分証明書等が30種類2000枚近く発行されているが、従来は各法令ごとに各所属が別々に発行・管理を行っていたため、事務が煩雑化していた。そこで、組織横断的なワーキングを立ち上げ、短期集中的に議論。厳格性の確保と省力化の観点から業務プロセスを見直し、交付対象者の氏名等の情報の照会事務の統合、本庁各所属への作成・発行・台帳管理事務の集約、電子ファイル上での作成、紛失時等の取扱のルール化等の改善案をとりまとめた。また、21年度からの運用に向けて、実務マニュアルの作成準備をしている。
8	企業庁	(111) 「実験して・飲んで・見て」の体験型浄水場見学	南勢水道事務所、水質管理情報センター	南勢水道事務所と水質管理情報センターの職員が協力して、従来から行ってきた浄水場への見学者受入事業を大胆な発想で見直し、濁った水から水道水を作る実験や作り立ての水の試飲ができる体験型見学へと刷新した。浄水施設の仕組みを再現した実験装置を、職員の知恵を結集して製作するなどの創意工夫を随所に盛り込み、全職員の協力体制で取り組んだ結果、「楽しかった」「すごくよくわかった」との見学者の声が増え、顧客満足度が大幅に上がった。さらに、手作りの実験器具を要望のあった県内の水道局に配布するなど、体験型浄水場見学の展開も図っている。
9	健康福祉部	(125) プチな気持ちからはじめよう！！ ~“こどもたちへのやくそく”を実現するために...草の実ホールから広がる療育の輪~	草の実リハビリテーションセンター「草の実プチプチ学会」実行委員会	「あなたがしたいとおもうことをじぶんのちからでできるようにおてつだいします」昨年50周年を迎えた草の実リハビリテーションセンターは、次の50年に向け、上のような「こどもたちへのやくそく」を掲げて、新しい一歩を踏み出した。その中で、療育には多職種・多施設が一つのチームになって生まれる「繋がり」が必要との「気づき」を得て、休日に草の実スタッフ、市町の療育・教育関係者、こどもたちや保護者が自主的に集まってふれあい、率直に意見を発表しあう場「草の実プチプチ学会」の開催を始めた。予算ゼロ、全て手づくりのこの会は、多くの参加者の賛同のもと、大いに活性化している。
10	教育委員会	(176) 「人との交流がいちばんの学び」 ~『地域』とともに歩むコミュニティ・スクール・紀南~	県立紀南高等学校	近年、過疎化や少子化等の影響で入学志望者が減少し、存続が問われる状況にあった紀南高等学校は、「地域住民・保護者・同窓生等の意見や要望を直接学校運営に反映させることが、学校の活性化に結び付き、地域も活性化」との認識のもと、「地域」とともに歩むコミュニティ・スクールとして、近隣の小・中学校や地域と密着・連携した様々な交流活動に積極的に取り組んだ。その結果、生活・学習の両面で生徒の姿が良好となり、教職員も活性化し、その情報が次第に地域に浸透。同校への志望者が増加し始めた。
11	教育委員会	(227) 地球を緑溢れる美しい星に ~G8北海道洞爺湖サミットロゴマークに込めた世界へのメッセージ~	県立特別支援学校北勢きらら学園高等部	「児童生徒一人ひとりが、主人公として快適に学び、確かな成長・発達を遂げ、それぞれの個性に応じた自立と社会参加の実現を図る」ことを目指す北勢きらら学園。2008年7月の「G8北海道洞爺湖サミット」開催にあたり、内閣官房が全国の児童生徒のグループを対象に公募したロゴマークの共同制作に、「総合的な学習の時間」を活用して取り組んだところ、生徒5人のグループの「地球を緑溢れる美しい星に」というメッセージを込めて制作した作品が、全国から集まった4,198点の作品の中から最優秀賞（内閣総理大臣賞）に選ばれ、サミットの公式ロゴマークに採用された。